

14 局所麻酔下センチネルリンパ節生検（局麻下 SNB）の臨床的意義について

佐藤 友威・武藤 一郎・長谷川正樹
青野 高志・岡田 貴幸・鈴木 晋
金子 和弘・木戸 知紀

県立中央病院外科

新たな臨床試験の結果が次々に報告され、乳癌の治療は日々多様化・複雑化してきている。一方、SNBは不要な腋窩リンパ節郭清を省略できる手法として標準化している。当科では昨年よりRI法又は色素との併用法によるSNBを行っている。また治療方針の決定のために、局麻下SNBも行っている。現在まで9例に対して局麻下SNBを行った。それらをまとめ検討したので報告する。また、局麻下SNBの有用性について解説するとともに、当科での乳癌治療方針について紹介する。

15 当科における乳癌センチネルリンパ節生検の成績

神林智寿子・佐藤 信昭・金子 耕司
天願 敬・丸山 聡・野村 達也
中川 悟・瀧井 康公・藪崎 裕
土屋 嘉昭・梨本 篤・田中 乙雄

県立がんセンター新潟病院外科

2001～2008年でSLNB目的にリンフォシンチグラフィを施行した乳癌症例1384例を対象とし、RI法単独での成績を検討した。平均年齢54歳、観察期間中央値43M。同定とはリンフォシンチグラムでの描出とhot nodeの全数が術中同定できた症例とした。

【結果】同定率は1240例（89.6%）であったが、前期（2001年～2004年）、後期（2005年～2008年）で検討すると85%、94%で後期で改善した。SLNBのみで終了した症例は973例（70.3%）。腋窩郭清移行例は411例（29.7%）で①リンフォシンチグラフィで描出なしが91例②術中同定不能が53例③迅速診断で転移陽性が266例、その他1例。術中迅速診断の偽陰性率は5.3%、non-SLNにのみ転移陽性は2.1%。SLNB後の同側腋窩のみの再発は5例（0.5%）、遠隔転移29例

（2.9%）。

【結語】同定率も後期では94%と良好で、他の結果も諸家の報告と同等であり、当科でのRI法によるSLNBは有用である。

16 カルボプラチン、パクリタキセルによる肺癌術後補助化学療法の経験

白戸 亨・青木 正・矢澤 正知

県立中央病院呼吸器外科

【目的】当科で施行した非小細胞肺癌に対する術後補助化学療法の安全性について検討する。

【対象と方法】2007年4月から当科でカルボプラチン、パクリタキセルによる術後補助化学療法を行った症例を対象とし、補助療法開始までの期間、副作用、完遂率をレトロスペクティブに検討した。

【結果】この期間の非小細胞癌手術例は171例で、当科で術後補助化学療法を計画した症例は22例であった。22例の病理病期はI 5例、II 7例、III A 10例であった。補助化学療法の開始時期は術後46日、副作用はgrade 4のアレルギーが1例、grade 3の白血球減少が4例、grade 3の貧血が3例などであった。治療の完遂率は87.5%であった。

【結語】CBDCA + weeklt PTXの完遂率は高く副作用も軽度で安全に施行できた。しかし治療を必要とする副作用も発現するので十分な観察が必要である。

17 間質性肺炎に続発した難治性気胸に対しV-V ECMO使用下に手術を施行した1症例

本野 望・斎藤 正幸・島田 晃治

名村 理・大関 一

県立新発田病院胸部外科

症例は78歳、男性。関節リウマチおよび膠原病性間質性肺炎で免疫抑制剤投与中。2009年7月、左気胸を発症した。胸腔ドレナージを開始するも、肺の十分な拡張は得られず換気不全に陥り保存的治療は継続不可能となり手術を施行した。片肺換